

春期の高温傾向に対応した技術対策について

福島県農林水産部農業振興課

2月は気温の高い日が多く、月平均気温は福島、若松で平年より1.4℃高く、小名浜で平年より1.7℃高く、白河で平年より1.8℃高く経過しました。

今後とも気温の高い状況が続くことが見込まれ、平成31年2月28日付け仙台管区気象台発表の東北地方1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%と予想されています。

また、平成31年3月4日付け仙台管区気象台発表の高温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）では、3月9日頃からの約1週間、高温傾向が継続する見込みとなっています。

このため、農作物の生育の前進化に伴う霜害発生や、病害虫発生の増加など、農作物への影響が懸念されますので、今後の気象情報等に注意し、技術対策を徹底しましょう。

東北地方 1か月予報(3月2日から4月1日までの天候見通し)

(平成31年2月28日仙台管区気象台 発表)

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

東北日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。日照時間は、東北日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。東北日本海側の降雪量は、少ない確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

高温に関する異常天候早期警戒情報（東北地方）

(平成31年3月4日14時30分 仙台管区気象台 発表)

要早期警戒（気温）、警戒期間 3月9日頃からの約1週間

対象地域 東北地方

警戒事項 かなりの高温（7日平均地域平年差+2.4℃以上）

確率 30%以上

今回の検討対象期間（3月9日から3月18日まで）をとおして、東北地方では、7日間平均気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。

農作物の管理やなだれ等に注意してください。また、今後の気象情報に注意してください。

なお、東北地方では、昨日までの1週間、気温の高い状態が続いています。今後も1週目から2週目にかけて気温の高い状態が続く見込みです。

【 果樹 】

(生育予測)

果樹研究所の生育予測（3月4日現在）によると、今後の気温が平年より2℃高く経過した場合、モモ「あかつき」の発芽は3月19日頃で平年より6日早く、ナシ「幸水」の発芽は3月30日頃で平年より3日早く、リンゴ「ふじ」の発芽は3月23日頃で平年より5日早いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意してください。

表1 福島県果樹研究所における発芽予測（平成31年3月4日現在）

	発芽日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	3月24日	3月25日	3月23日	3月19日	3月27日
幸水	3月28日	4月2日	4月3日	3月30日	4月7日
ふじ	3月24日	3月28日	3月27日	3月23日	4月1日

注) 発芽日の平年は1986～2015年の平均値。

(技術対策)

- 1 花芽及び葉芽の発育は平年より進んでいることから、せん定枝処理や誘引、モモの摘らいなどの管理作業は、計画的に実施しましょう。
- 2 発芽前の休眠期防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。
- 3 昨年は3月31日の低温により、リンゴ、オウトウ等で凍霜害が発生しました。防霜資材は早めに準備し、樹冠下の敷ワラ除去などの対策を早めに行いましょう。

【 麦 】

(生育状況)

- 1 農業総合センターの調査では、郡山の小麦「ふくあかり」、「きぬあずま」の幼穂形成始期は21日早まり、節間伸長開始期も25～26日早まりました。
- 2 同じく相馬の小麦「きぬあずま」の幼穂形成始期は28日早まり、節間伸長開始期も21日早まりました。
- 3 会津坂下の小麦「ゆきちから」の幼穂形成始期も早まることが予想されます。
- 4 中通りと浜通りでは、節間伸長開始期を過ぎているため、低温（小麦では-2.5℃以下、大麦では-3.5℃以下）による凍霜害の発生に注意が必要です。

表2 農業総合センターにおける小麦の生育状況

調査場所	品 種	は種期 (月.日)	出芽期 (月.日)	幼穂形成始期 (月.日)	節間伸長開始期 (月.日)	出穂期 (月.日)
郡 山	ふくあかり	10.18(-1)	10.25(-2)	1.7(-21)	2.21(-26)	(平年値4.25)
郡 山	きぬあずま	10.18(-1)	10.27(-1)	1.7(-21)	2.23(-25)	(平年値4.26)
会津坂下	ゆきちから	10.5(+1)	10.11(0)	(平年値3.22)	(平年値4.10)	(平年値5.10)
相 馬	きぬあずま	10.23(-4)	10.30(-8)	1.13(-28)	2.27(-21)	(平年値4.27)

※農業総合センター本部（郡山）および、同浜地域研究所（相馬）、同会津地域研究所（会津坂下）の調査による。（ ）内の数字は平年差である。

（技術対策）

生育が早まっていますので、適期の追肥等の基本技術を徹底しましょう。また、凍霜害が発生した場合でも、以下の技術の実施により、収量や品質を確保することができます。

1 追肥（小麦、大麦共通）

追肥（穂肥）は、中通り・浜通りでは3月上旬まで、会津地方では3月中旬を目安（融雪後速やかに）に行います。追肥量は、窒素成分で3～4 kg/10 a とします。

一方、茎葉が繁茂しているほ場では、1 kg/10 a 減肥します。

2 除草

ほ場全体に雑草の発生が確認されたら、速やかに茎葉処理剤を散布します。

3 その他

降雨後の排水対策として、明きょや排水溝の点検を行きましょう。

出穂期も早まることが予想されますので、赤かび病の適期防除に努めましょう。

【 野菜 】 （生育状況）

1 イチゴ

（1）促成栽培

各産地では第1次えき花房収穫中、第二次えき花房開花結実中となっています。気温が高く推移しているので、生育も順調に進んでいます。

病害虫は、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等が発生しています。

（2）半促成栽培

頂花房が収穫中です。ハダニ類の発生が見られています。

2 葉茎菜類（ニラ・ネギ・ブロッコリー）

（1）秋冬ニラは収穫終盤となっています。換気不足のほ場では、白斑葉枯病の発生が見られています。

（2）ネギ、ブロッコリーの苗は順調に生育しており、定植に向けほ場準備が行われています。

3 施設栽培

（1）キュウリ

加温半促成栽培は、ほぼ平年並に播種され、定植が終了しています。

（2）トマト

促成トマトは収穫が進んでおり、収穫量は前年並からやや伸びている状況です。

（技術対策）

1 イチゴ

（1）気温が高いと生育及び果実の熟度が進むので、換気を図り温度管理に注意するとともに、適期収穫・鮮度保持に努めましょう。

土壤の乾燥にも注意しかん水により適正な土壤水分を保ちます。

（2）ハウス内の温度が高くなり乾燥するとうどんこ病やハダニ類、アブラムシ類等病害虫の発生が多くなるので、初期防除に努めましょう。

2 葉茎菜類

（1）ニラ

収穫遅れによる規格外品にならないよう適期収穫に努めましょう。多湿条件では、白斑葉枯病やトロケ症（腐敗病）が発生しやすくなるので、施設内の換気を図りハウス内の温度管理に注意しましょう。

（2）ネギ、ブロッコリー

降雨が少なく土壤の乾燥が続く場合には、降雨後の定植や苗の活着促進のために定植後の株元へのかん水を行きましょう。

3 施設栽培（キュウリ、トマト等）

施設内温度、土壌水分を適正に管理することに留意するとともに、病害虫の発生も前進化してくるので、早期発見、早期防除に努めましょう。

また、軟弱徒長ぎみで生育している場合は、外気の流入による障害が発生しやすくなるため、温度管理に注意しましょう。

【 花き 】

（生育状況）

花木類はほぼ順調な生育であり、サクラ類やユキヤナギを中心に出荷されています。

秋まきのトルコギキョウの生育は順調です。

（技術対策）

1 施設管理

日差しが強くなってきており、晴天時には外気温が低くてもハウス内が高温となりやすいため、目標の温度によりこまめな換気を行いましょう。特に育苗を行っているハウスでは注意が必要です。

また、土壌水分管理にも注意し必要に応じて適宜かん水を実施してください。

2 露地ほ場

霜柱等により、リンドウの根の浮き上がりが見られた場合は、通路の土等を使い早急に埋め戻しましょう。

また、通常雪の下になっているリンドウや宿根カスミソウ等については、融雪が早まり萌芽が始まると、凍害を受けるおそれがあります。強い霜が降るおそれがあるときは、ベタがけ資材等の被覆により被害を防ぎましょう。

3 病害虫防除

スリップス類やハダニ類、白さび病等、病害虫の発生が前進化する可能性があるため、ほ場内の残渣や雑草を適切に処理し、観察を怠らず早期発見、早期防除に努めましょう。

【 飼料作物 】

（生育状況）

現在のところ、牧草の生育は平年並です。

今後の気温や降水量によっては、牧草の生育が早まる可能性がありますので、生育状況を観察し適期に早春の施肥を行いましょう。

また、ムギダニの被害が心配されますので、ムギダニを確認したら防除を行いましょう。

（技術対策）

1 ムギダニの防除対策

県内における草地のムギダニ被害は、春（3～4月）と秋（11～12月）に経年草地で草勢が弱い草地等で発生が見られます。

県内の草地は、昨年的高温・少雨により草勢が弱っている草地が多く、被害が発生する可能性があります。

牧草の生育状況を確認し、牧草が局所的に白変しているような場所がある場合は、ムギダニによる被害の可能性があります。牧草の株元を見て、ムギダニ（胴体は黒、脚は橙赤色の虫）が多数確認できたら速やかに薬剤の散布を行いましょう。

2 防除上の留意点

牧草葉身に直接寒風が当たり、葉身先端部分が白変する場合があります。牧草の白変がムギダニによるものかどうかを、牧草の株元のムギダニ発生状況で確認してから対策を行ってください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL 024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>